



●Habitat67（モントリオール）

カナダの1967年モントリオール万博に訪れる要人の仮住まいとして使われた建築で、今なお住居として愛されている建物です。何種類かのコンクリート製のユニットをレゴブロックのように積み重ね、複雑で見飽きることのない造形をしています。

壁の色はコンクリート色一色。生憎小雨の中での訪問でしたが、雨染みによる色の建物の変化や形状がはっきりと確認できました。遠景では石の要塞のように見えますが、近景ではユニット間の隙間から空が見え、各住戸テラスの植栽からは生命力や営みを感じます。建築家は、インフィニティプールで有名なシンガポールのマリーナベイ・サンズを設計した、モシェ・サフディです。

（幹事 鈴木章子）



●「等色関数」考

光あるいは色の明るさを求める際に、眼の特性を表すものとして分光視感効率 $V(\lambda)$ があります。各波長光の明るさに対する人間の眼の感度で波長 555 nm 付近を頂点とする釣鐘状曲線で表されます。一方、色を表すときに用いる等色関数は、 $x(\lambda)$ 、 $y(\lambda)$ 、 $z(\lambda)$ の三つがあり、その中の $y(\lambda)$ は分光視感効率 $V(\lambda)$ と一致します。

XYZ 表色系は、実在する色光を用いた等色実験のデータから数学的操作でつくられ、原刺激 [Y] は緑みと明るさ、[X] と [Z] はそれぞれ赤みと青みだけもつように設定されました。そのため明るさは原刺激 [Y] の混色量である三刺激値 Y だけで表されることになります。各波長光つまりスペクトルの各単色光について求めた三刺激値が等色関数で、以前はスペクトル三刺激値と呼ばっていました。このように原刺激 [Y] にだけ明るさをもたらせた結果、 $y(\lambda)$ は $V(\lambda)$ と一致することになります。このことも金子隆芳；色の科学、みすず書房 (1975) から学びました。XYZ 表色系の等色関数は、CIE が測色計算上便宜的に定めた仮想的な眼の感度ですが、 $y(\lambda)$ だけは実際の眼の感度なのですね。 $(xyz$ の上に一をつけて読むこと) (久下靖征)

●大辞泉ひろい読み 99-さ

彩色：さいしょく。さいしき。彩色。

菜色：さいしょく。青菜のような色。栄養の悪い、青ざめた顔色。

催色：さいしょく。果実の熟成促進作用をもつエチレンガスなどを用いて、人工的にバナナ、レモンなどを発色させること。

催青：さいせい。孵化の近い蚕の卵を、適当な温度・湿度と光線の部屋に保護し、孵化をそろえる処置。孵化直前の卵は殻が透け、青く見える。

彩層：太陽の光球を取り巻く 2000~3000 キロの希薄な太陽大気。外側にコロナがひろがる。ふだんは見えないが皆既日食の際、皆既の直前と直後に、淡紅色に輝いて見える。

彩筆：さいひつ。色を塗るのに用いる筆。美しい筆。転じて、美しく彩られた絵や文章。

彩墨：さいぼく。彩色絵と墨絵。

彩文・彩紋：さいもん。いろどりの美しい紋様。また、波状線・弧・円などを組み合わせた精密な幾何学的模様、紙幣・証券などの図案に用いる。

彩文土器：さいもんどき。彩色顔料で具象文や幾何学文を描いた素焼きの土器。原始農耕文化の発生とともに発達し、世界各地に分布。彩色土器。彩陶。*大辞泉：小学館発行国語辞典